

12月9日(日)

時間 10:00~16:00

OMM(天満橋)会議室201に変更

会場 大阪歯科大学 創立100周年記念館

対象 歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士・学生

研修費 歯科医師(会員)7,000円、歯科医師(会員5年未満)3,000円
歯科医師(会費未納者、他大学)17,000円
歯科衛生士・歯科技工士3,000円、学生無料

歯周病患者に対する 包括的治療における Soft & Hard Tissue Management



北島 一

日本臨床歯周病学会認定医
OJ(Osseointegration study club of Japan) 常任理事
AAP(American Academy of Periodontology) 会員
EAED (European Academy of Esthetic Dentistry) 会員

[略歴]

1987年 広島大学歯学部卒業
1990年~ 北島歯科医院 開業
2008年 5-D Japan (石川、福西、船登、南先生とともに) 発足

[参考]

<http://www.jacid.jp/archives/portfolio-item/kitajima>

歯周病が進行した口腔内には、歯の支持骨の喪失や歯の欠損も見られ、さらには歯列不正、咬合の異常がおり、機能的、審美的な問題を抱えることが少なくない。

このような状況に対し、機能回復については歯周組織再生療法による支持組織の獲得や矯正治療、欠損部へのインプラント修復などの包括的な治療が有効に働く。

また審美性については、歯周病によって歯を喪失するようなケースでは、欠損部歯槽堤の骨量の不足と同時に、そこに隣接する周囲天然歯においても骨吸収が進行し、歯肉退縮に伴う歯根面露出や歯間乳頭の喪失による鼓形空隙の拡大など審美性を損なう問題を抱えていて、健全な歯周組織を有する歯列のような審美性を獲得することは困難な場合が多い。

このとき審美性の獲得、天然歯の保存、天然歯質の保存という三つの目標全てを達成できる治療は考えにくく、これら三つのうちのいずれかを妥協したものが現実的な治療計画となり得るであろう。このとき術者は患者の希望に配慮しながら、審美性の獲得、天然歯の保存、天然歯質の保存というそれぞれの要素のなかでバランスを取り、個々の患者にとって最善と思われる治療のゴール設定を行うことが求められる。

そして決定されたゴールに到達するためには、様々な状況に応じた戦略を立案し、適切な軟組織および硬組織に対するTissue Managementを応用することが必要となる。